

# 和歌山 嫌なものは嫌と言おう

## 「矛盾噴出、反対広がる」

和歌山県が和歌山市に誘致を進めているカジノ計画（IR）で大門実紀史参院議員は23日、県当局から聞き取りを行い、計画地のマリーナシティを党和歌山県議団とともに調査（写真）したうえで、住民と懇談しました。



カジノは来年1月、国が立地区域の選定基準などを示す基本計画を正式決定。設置個所は全国3カ所ですが、和歌山、大阪府・

市を含む8自治体が誘致を表明。しかし北海道が撤退を表明し、横浜市では大きな反対運動が起きています。会場いっぱいになった「語る会」で大門さんは、反対の広がりを示し、和歌山は中規模リゾート型として計画されたが、国がカジノに併設する施設の要件をホテル面積10万平方メートル以上、国際会議場6000人以上収容を設置条件にしたため矛盾が起きていることを指摘。「和歌山はその時点で撤退すればよかったのに、固執したため無理に無理を重ねている」とのべました。

それでは和歌山には来ないのか―大門さんは誘致自治体の状況を詳しく説明し、「どこが消えるかわからない」として運動を緩めてはならないと強調しました。また県などが前面にしている「経済効果」について「人の金を奪うことで成り立つカジノに経済効果はない。相手が経済効果を言い続けるなら、こちらも言い続けよう」と訴えました。

さまざまな疑問に答えた大門さんは「嫌なものは嫌、ばくちは嫌、子どもに見せたくないなど素朴な感情が大事」「相手は強力だが、頑張り続ければ打ち破ることができる」と各地の例を紹介しながら説明しました。参加者は「確信が持てた」と明るく語っていました。



兵庫・国政  
懇談会

## 力合わせて要求実現を

### 清水・宮本氏が報告

日本共産党国会議員団兵庫事務所は18日、国政懇談会を開き、清水忠史衆院議員、宮本岳志前衆院議員が国政報告し、参加者が安倍政治の下での実態と要求について発言

しました。清水氏は「桜を見る会」問題での国会共闘、高知知事選などでの野党共闘の広がりを紹介。また「地域の皆さんと国政にかかわる者が力を合わせ、一つ一つ実現を」と述べました。宮本氏は「森友・加計」問題と「桜」疑惑が相似形であることを指摘し、「政治で解決すべき問題が山積している」とし、「みんなの力で安倍政権打倒を」と訴えました。

参加した市民団体や地方議員が次つぎ発言。「保育士が確保できず子どもを受け入れられない」「高等教育無償化どころか、負担が増える」「診療報酬の引き上げを」「福島原発事故避難者への支援を」「オスプレイ飛行中止を」など様々な要求が出されました。

懇談会では、こむら潤衆院比例・8区候補、福原ゆかり9区候補も発言しました。

### 近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 38(2019.12.25)